

報告書

海外教育(実践)

研究 C 韓国

2024年9月23日~9月27日

令和  
6年度

上越教育大学

# 目 次

参加者および担当教員名簿	1
日程表	2-4
参加学生の報告書	5-20
記録写真	21-25



## 令和6年度 海外教育（実践）研究C（韓国）参加者名簿

No.	所属1	所属2	学籍番号	学年	氏名	フリガナ
1	学部	-	20242119G	1	深瀬 佑愛	フカセ ユメ
2	学部	-	20242156M	1	山中 和奏	ヤマナカ ワカナ
3	学部	-	20242164A	1	利田 奈都美	リタ ナツミ
4	学部	幼年教育コース	20212104B	4	中村 理菜	ナカムラ リナ
5	大学院	教科教育・教科複合 実践研究コース(英語)	20225318P	3	間嶋 夏生	マジマ ナツキ
6	大学院	発達支援教育実践研究 コース(学校ヘルスケア)	20225901P	3	大野 珠実	オオノ タマミ
7	教員（引率）	芸術・体育・教科横断・ 総合教育学系 教授	/		時得 紀子	トキエ ノリコ
8	教員（引率）	芸術・体育・教科横断・ 総合教育学系 准教授			兪 期天	ユ キチヨン

令和6年9月19日（木）

研究連携課 国際交流・地域連携チーム

令和6年度 海外教育（実践）研究C（韓国） 日程表

旅行期間：令和6（2024）年9月23日（月）～9月27日（金）

目的地：韓国教員大学校及びソウル市（国名：韓国）

参加者：学部生4名，大学院学生2名，引率教員2名（時得教授，兪准教授）

日程：

日	月 日	出発地／到着地	現地時間	交通機関	用務先（宿泊地）
1	9月23日（月/祝）	羽田空港集合	<b>9:30</b>		
		羽田空港 発	12:05	OZ1075便	
		金浦空港 着	14:25		
		金浦空港 発	16:00	（大学校バス）	
		韓国教員大学校（ホテル） 着	18:00		
		到着後チェックイン			
		18:30から夕食（予定）			
		朝× 昼× 夕○			〔忠清北道 清州市内泊〕
2	9月24日（火）	韓国教員大学校 ・韓国教員大学校附属小学校での授業実践及び歓迎交流プログラム（詳細は別紙を参照）			
		朝○ 昼○ 夕○			〔忠清北道 清州市内泊〕
3	9月25日（水）	韓国教育大学校 発	8:00	（大学校バス）	
		歓迎交流プログラム（詳細は別紙を参照）			
		ソウル市内ホテル 着	15:00		
		朝○ 昼○ 夕×			〔ソウル市内泊〕
4	9月26日（木）	ソウル市内滞在 文化研修		公共交通機関、タクシー等	
		朝× 昼× 夕×			〔ソウル市内泊〕
5	9月27日（金）	ソウル市内ホテル 発	5:45	タクシー、リムジンバス、または鉄道	
		金浦空港 着	6:45		
		金浦空港 発	8:40	OZ1085便	
		羽田空港 着	10:45		
		到着ロビーにて解散 （各自で上越に帰る）			
		朝× 昼× 夕×			

【宿泊場所】

9月23, 24日 H Hotel Sejong City

住所：178, Osongsaengmyeong-ro, Osong-eup, Heungdeok-gu, Cheongju-si,  
Chungcheongbuk-do

9月25, 26日 仁寺洞クラウンホテル

住所：9 Samil-daero 30-gil, Nagwon-dong, Jongno-gu, Seoul

## Ⅱ. 세부 행사일정

### □ 1일차('24. 9. 23.(월))

시간	내용	비고
12:00	교員大学から出発	引率者搭乗
14:50	金浦空港 航空便到着	アジアナ航空 OZ1075
15:30 ~ 18:00	金浦空港>オゾン	15:30까지 まで搭乗案内
18:00	ホテル到着 チェックイン	オゾンHホテル
18:30 - 19:30	夕飯	편편집 오송점

### □ 2일차('24. 9. 24.(화))

시간	내용	비고
07:00 - 08:30	朝食	オゾンHホテル
08:40 - 09:00	オゾン>ウォルコク小	引率者搭乗
09:00 - 09:10	ウォルコク小到着、 <sup>テキスト</sup> 実践準備	2組で編成
09:50 - 10:30	授業実践	小学校の指導教員が引率
10:30 - 11:30	授業実践について意見共有	
11:30 - 14:00	昼食	韓食の定食
14:00 - 14:10	ウォルコク小>教員大 移動	本部長面談 (本部609号)
14:30 - 16:30	キャンパスツアー	博物館、図書館、学生会館
17:00 - 19:00	夕飯	鶏肉の店 (タッドリタン)

#### ○ 수업시연 세부내용

※ 별첨 수업실연(안) 파일 참고

- (참가자) 조예츠교육대 학부생 4명, 대학원생 2명, 인솔자 2명(2개조)
- (시연내용) 일본문화 체험(일본 통통스모, 설 명절 소개)
- (시연장소) 월곡초등학교(3-4학년)
- (담당자) 미래교육부장 임동규 선생님

□ 3일차(24. 9. 25.(수))

시간	내용	비고
07:00 - 08:00	朝食	오송H호텔
08:00 - 12:00	오송 > 仁寺洞	仁寺洞
12:00 - 13:30	昼食	餃子の店
13:30 - 15:00	仁寺洞 SSAMZIGIL	文化体験活動
15:00 -	호텔移動後、日程終了	クラウンホテル

」

### Ⅲ. 행정사항

□ 지원사항

- (차 량 편) 전세 버스 1대 임차(완료, 붙임 견적서 참고)
- (숙 소) 오송 H호텔(학생 2인1실, 인솔자 1인1실, 붙임 견적서 참고)
- (식 사) 3일간 총 4식 제공
  - ※ 호텔에서 제공되는 조식 제외
- (인 솔 자) 1명(대외협력본부 이주상)
- (통역지원) 통역봉사 학생 2명 모집(9. 23. ~ 25., 3일간)
  - ※ (역할) 수업실연 지원 및 서울 문화탐방 참여 / (역량마일리지) 21점 제공 / (공지방안) 홈페이지 및 학생역량통합관리시스템 개설

□ 성과관리

- 참가 학생들을 대상으로 만족도 조사 실시
  - ※ (실시방법) 인솔자를 통한 서면 설문조사 실시(첨부 만족도조사서 참고)

# 報告書

# 海外教育研究

## G2クラス

### 深瀬佑愛(学部1年)

#### はじめに

私は、大学に入学し様々なことに挑戦していきたいと考える中でこの授業があることを知った。韓国の人々と関わり、文化にふれて今とは違う価値観を知り、自分がいる場所が全てではなく、もっと広い視野を持ち物事を判断できるようになりたいと思いこの授業に参加することを決めた。

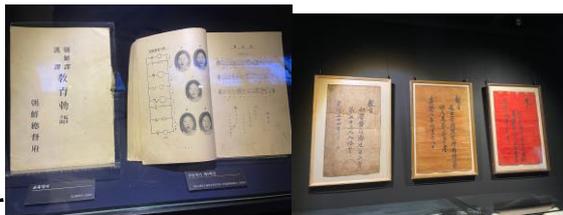
#### 日本との教育の違い



この研修の中で韓国教員大学附属小学校にお世話になった。校内を見学させていただくと日本の小学校と比べてとても広く感じた。校舎は別館と合わせて2つあり、体育館にはクーラーなどの設備が整っていて、日本よりも先を行っているように感じた。教室内は日本の学校と同じように机と椅子が並べられていたが、どの教室にも後方には必ず、くつろぐ用のスペースが設けられていて、生徒たちはアイデアを出すときや集中したいときに自由に移動できるように成っているということだった。また3Dプリンターやコンピュータがたくさんあり、日本と比べると小学生のうちから専門的な教育を受けているという印象を受けた。一方で日本と同じように休み時間は校庭で遊ぶ生徒がたくさんいた。また、来校者である私たちにきちんと挨拶をしてくれる生徒がとても多く、温かい気持ちになった。

#### Teaching Practiceを振り返って

私が今回の研修の中で一番、不安が大きかったのは授業実践であった。日本での準備の時から上手くいくのか不安を抱えていたが、いざ授業が始まると生徒たちは真剣に私たちの話を聞いてくれた。スライドやイラストを使うことでより分かりやすくすることができた。実際に、福笑いなどで遊んでみる際には、子どもたちが主体的にグループで活動していて興味を持ってもらえることができたと感じた。また日本語を発音する際には、みんな大きな声を出してくれて、覚えるのがとても早く感じた。韓国語を上手く話すことができなかったため、生徒からの質問に直接答えられなかったことは残念だった。しかし、ジェスチャーや表情も大切な意思表示であることをより強く感じた。45分間の授業はあっという間に終わってしまったが、有意義な時間にすることができて良かった。



#### 文化研修について

文化研修において、韓国の食、伝統、教育の歴史などについて学んだ。中でも私が一番、印象に残っているのは韓国の教育の歴史についてである。韓国教員大学の教育博物館を訪れて韓国の教育の歴史を学んだ。現代の教育現場についてだけではなく韓国の教育の起源から学ぶことができて興味深かった。昔の官職に就くための試験資料や合格証明書などを見学した。

韓国には兵役制度があるが、それは昔からの伝統で、勉強ができればそれを免れることができるため昔から教育に力を入れる人が多いことで競争率が高い。また、日本と同じように昔は女性に教育は必要ないと考えられていたため女性は、民謡などで言葉を覚えていたということをしり日本との共通点も見られた。展示の中でも強い印象を受けたのは戦争をしていた時代の部分だった。日本が韓国を植民地として、学生に無理やり日本語教育を受けさせていた歴史などが紹介されていた。日本にいと、日本人が辛い思いをした戦争の歴史に焦点が当てられ勝ちだが、その反対に日本にも悪い印象が持たれているということも忘れてはいけないと改めて感じることができた。この博物館での展示見学はとても貴重な体験となった。



### 韓国でのおもしろ新発見

韓国で過ごす中で、面白い発見もあった。1つは韓国の公園には健康器具がたくさんあるということだ。ジムに行かなくても公園で健康維持のための運動が手軽にできる！私もいくつかやってみたが、どれも動きは簡単で誰でもできるようになっていて楽しかった。

もう1つ！韓国にはカフェがたくさんあり、飲み物がとても安い！！韓国では食事後にカフェに行くという文化があるそうだ。いたるところにカフェがあり、たくさんのお客さんがいた。

そして、韓国にはセブンイレブンもたくさんある！日本とは商品が違ったがアイスの種類は豊富だった。またイトインスペースもあり食事をしている人もいた。

最後に、韓国の電車の切符は面白い。日本と違い切符はカードのように厚く、降りた駅で回収される。そこには電車に乗る際のマナーが書かれていて多くのデザインがあった。日本とは大きく違うため、面白く感じた。

### 終わりに

今回の研修を通して韓国について今までよりもより身近に感じることができるようになった。距離的にはそこまで遠くない韓国。しかし、教育競争率が激しいことや兵役制度があることなどから、日本とは違う厳しい国というイメージを勝手に持っていた。しかし、この研修でたくさんの現地の方々や子どもたちと関わり、韓国の人々の優しさや明るさを実感した。現地の人と話をすることでいろいろな考えや思いを知ることができた。また子どもたちが純粋に福笑いを楽しむ姿を見て、日本の小学生と変わらないということを改めて実感して、本当に本当に嬉しい気持ちになり、なんだか安心した。韓国の生活文化や食文化においては、日本とは違いが大きいと感じたが、街並みや商店街は活気があふれていて素敵な雰囲気だった。今回の研修を通して新たに気づいたことはたくさんあった。教科書や新聞で学ぶだけではなく、実際に現地の人と関わり、自分の目で見て確かめることでしか気づけないこともたくさんあると思う。この経験をたくさんの人に伝え、外国に興味を持ってもらえるように手助けしてあげたいと思う。また、この経験を生かし、さらに新たなことにも挑戦して自分の経験や視野をより広げていきたいと思う。



# 韓国研修の記録

所属 学校教育学部

氏名 山中和奏 (学部 1年)

## 1. はじめに

まず、私がこの海外教育研修を履修した理由は、この先教員になった際の技術向上にこの研修での経験を役立てると共に、日本を出ることで世界の広さを実体験したいと考えたからである。また、韓国は数年前から食べ物などの文化に興味があり、韓国での海外研修を選択した。

## 2. 教育の比較

今回の韓国研修から学んだ、韓国と日本の教育における共通点及び相違点を述べる。

まず、共通点としては教室の机や椅子の配置や雰囲気と同じだということが挙げられる。子どもたち側から見て左に教師の机があったり、子どもたちの机は6列でペアワークがしやすい配置となっていた。



一方で、相違点としては日本の学校よりも設備が整っており、子どもたちがのびのびと勉強し生活してゆける環境がつけられていることが挙げられる。今回の研修では1つの小学校しか行かなかったため、韓国全ての学校に当てはまるとは限らないが、見学した小学校からはこのことをとても強く感じた。校舎は外観も内観もビビットな色合いの壁が多く、見学しているだけでとてもワクワクした気持ちになった。また、リラックスしながら考え事ができるようなスペースや3Dプリンター、黒板代わりのホワイトボードもあった。そして特に驚いたのは、小さな広場のようなところに設置されたドラムやピアノだった。休み時間には演奏している音が聞こえ、自由に使用できるようになっているということにも驚いた。

このように、子どもたちが自身の好きなことを見つけて没頭できるような設備や環境を整えることで、学校に行きたいと思いやすくなり、より豊かな学校生活を送っていけるのではないかと感じた。



### 3. Teaching Practiceに対する振り返り

授業実践で成長したことは、思考の切り替えができるようになったことだと考える。授業実践で子どもたちと遊んでいる際には、楽しいと感じてもらえるよう明るい表情や反応を心がけながらも今後の進行を少し考え、子どもの対応をしていない時には今後の授業の進行や時間配分などを他の先生と話合うなど、メリハリをつけた思考と行動が取れるようになった。

一方で、今後の課題としてはアドリブや人前で話すことに慣れることだと感じた。これまで、話す内容や話し方を事前に練習してきたが、本番になると緊張してしまい、なかなか練習の成果を発揮出来なかった。また、失敗して想定通りに行かなかった際のアドリブも戸惑ってしまい、修正していくことも出来なかった。

今後は、人前に出るような経験を積むとともに、今回感じた課題を今後の授業実践に活に活かしていきたい。

### 4. 文化研修

#### (1) 食文化

今回の研修を通して、韓国の様々な料理を食べることができた。サムゲタンやサムギョブサル、冷麺やキンパ、龍の髭などどれも想像以上に美味しかったが、特に印象に残った料理

はマンドゥジョンゴルという韓国の餃子が入った鍋だった。牛骨スープがとても美味しかった。韓国のご飯を食べていく中で、全て共通して感じたことは全体的に量が多いということだ。これ何人分？と驚いてしまうほど量が多く、韓国の人は食べる量が多かったり普段からシェアすることが多いののだろうかと思った。また、日本では箸やスプーンなどのカトラリーが箱に収納されてテーブルの上においてあることが多いが、韓国ではテーブルのサイドに引き出しがついており、そこから取り出す形式が多かった。



## (2) 歴史的建造物

今回の文化研修では、景福宮（キョンボックン）や北村韓屋村（プッチョンハノッ）、駱山公園（ナクサン公園）などに訪れた。どの場所も規模が大きく、圧巻される風景ばかりだった。特に景福宮は、とても広く、こんなところに住んでいたら絶対に移動が長すぎて疲れてしまうと思った。ドラマや写真などで見ていた景色が実際に目の前に広がったときの感動はとても大きかった。時間的な関係で、建造物は見るだけとなってしまったため、今度行く



ときはきちんと歴史的な背景や特徴などを勉強してから訪れたい。

## (3) その他

文化研修の途中に公園を通ると、様々な種類の健康器具が置いてあった。主に年配の方が多く利用しており、いつでも気軽に運動できるようなところがとてもいいと感じた。また、移動手段として地下鉄を利用した際には、利用料金に保証金が含まれており発券されたカードを使い終わりに機会に戻すと保証金分のいくらかお金が返ってくる仕組みに驚きました。さらに、そのカードに描かれたマナー紹介の絵がとてもかわいかった。



## 5. 終わりに

今回、初海外・初授業実践ということもあり様々なことを学び吸収することができた。また、自分たち生徒だけでいきたい場所行ったり、食べたいものを食べたりすることができ、新たな自身の可能性に気が付くきっかけになると共に、自分に自信がつくようになった。海外での経験を今回のみで満足してしまうのではなく、これからも海外に興味をもって、履修理由である世界の広さを感じ続け経験を教職に活かせるようにしていきたい。



## 海外教育研究

所属 学部1年D1クラス  
氏名 利田奈都美



(韓国教員大学 図書館)

### 1. はじめに

私は世界水準でトップクラスの教育水準を誇る韓国でどのような教育の場が整えられているのか、日本の教育現場との違いを自身の目で実際に見てみたいと思い、今回の韓国研修に望んだ。事前に私たちが授業をする際に、韓国教員大学側から翻訳をしてくれる生徒をつけてくださるという話を聞いていた。実際に授業実践前日に2名の韓国生徒と話したところ、日本語をドラマで学んだという方と日本の大学に短期間留学していたという方が翻訳をしてくれるとのことだった。私は何度か韓国語を話せるように勉強を試みたが、英語とは違い自主的な勉強であったために長続きすることはなく、韓国人と話せるレベルには達していなかった。翻訳をしてくださった韓国教員大学の2名は驚くほど日本語が堪能であった。お互い単語を説明することが難しい時は英語で何とか伝えようと試みた。伝わらない言語の壁を感じるとともに、日本語を独学で学び続ける姿勢に感銘を受けた。

### 2. 教育の比較

今回の研修で、まず「子供たちに日本語を触れさせたい」という韓国教員大学付属ウォルコク小学校の子供たちに外国語に触れる機会を与えたいという考えが見受けられた。授業実践前に学校内を軽く案内してもらったところ、体育館はプロジェクターや冷暖房設備が整えられ、理科室には万が一薬品を誤って被ってしまった場合の全身洗浄機、入口階段を上ったすぐの所には生徒が演奏できるバンドセット、子供たちの想像力を高めるための部屋など、安全を第一に子供が伸び伸び成長できる空間を学校が提供していた。また韓国教員大学では博物館や地下から地上7階にまでのぼる大規模な図書館が設立されていた。

設備に限らず、韓国の小学校では「自由」というイメージが強かった。小学生が髪を染めていたり、イヤリングやネックレス等のアクセサリーをつけたりして授業に挑んでいた。日本の学校でそれらが許可されている学校を私は聞いたことがない。日本の学校では学習に不必要なものを持っていくことを禁止している学校がほとんどである。しかし、なぜ学習に不必要なものを持ってきてはいけないのか、という点に私の中で疑問が生じた。より伸び伸びと成長させることを目的とした学校が韓国のような学校であるならば、勉強をすることを目的とした学校が日本の学校であるという見方ができる。改めて日本の教育とは何を目指しているのか、何のためにあるのかを考える機会になった。

### 3. Teaching Practiceに対する振り返り

授業実践では、事前に準備していた通りに完璧にすることはできなかった。しかし翻訳してくださる生徒と、目の前の小学生の表情や反応から臨機応変に対応することができた。私たちのグループはとんとん相撲を題材に授業を展開した。日本の伝統的なスポーツを遊びを通して知ってもらった。小学生は尚更日本語や英語を知らなかったので、手や表情だけのコミュニケーションとなり大変難しく感じた。しかし、生徒たちが積極的に授業に参加し、授業を終えた後に日本語で「ありがとう」と言ってくれたことがとても嬉しかった。

### 4. 終わりに

大学一年生で、まだ日本で授業実践を行っていないにも関わらず、初めての授業が海外ということで不安でいっぱいでしたが、チームの方のおかげもあり無事に終えることができ、授業指導や翻訳や引率、海外研修でこのような貴重な体験をさせてくださった皆様に大変感謝しております。この体験は私が日本教育を改めて考え直す、必要不可欠の体験であったと感じます。日本教育が「誰を、どう育てるのか」に重きを当てるのであれば、私は「教育者が、どう育てたいか」といったような、始めに育て方を考えるのではなく、「どのような人になってほしくて、そのために教育者は何をすべきなのか」という別の考え方をもって日本の教育と海外の教育をまた比べたいと思いました。

# 海外教育研究

## 幼年教育コース 中村理菜（4年）

### 1. はじめに

私は、韓国での授業実践や韓国教員大学校の学生との関わりを通して、韓国の教育や文化について学ぶことを目標にし、今回の海外教育研究に臨んだ。

### 2. 教育の比較

今回の海外教育研究では、韓国教員大学校と附属小学校を訪問し、日本の教育との共通点や相違点を見つけることができた。

多くの部分は、日本と韓国で大きな違いはなく、子どもたちの雰囲気もよく似ていた。大学の図書館で小学校の教科書を見る機会があり、イラストを使いながら内容が説明されていることなどが日本と同じであると分かった。韓国の小学校低学年は、日本の「生活科」と似たような科目があり、小学校のきまりや今後の理科、社会の内容につながることを学んでいると分かった。

相違点としては、設備の違いが挙げられる。附属小学校には、コンピューター室や3Dプリンター、児童が自由に演奏できるピアノやギター、ドラムなどがあり、子どもの興味・関心を引き出す環境が多くあるように感じた。また、ICT機器も充実しており、グループごとにプロジェクターがある教室もあった。訪問した小学校では、学習や練習の成果を発表する行事が充実しており、子どもの意欲や主体性を大切にしているということが分かった。

### 3. Teaching Practice1に対する振り返り

授業実践では、小学校3年生の児童を対象に福笑いの授業を行った。授業づくりの段階では、韓国の子どもたちの実態を想像することに難しさを感じたが、どのようにすれば福笑いの楽しさが伝わるのだろうかと考えながら、チームで協力して工夫することができた。言語が異なっても、子どもたちとのコミュニケーションを大切にすることを心掛けて授業づくりを進めることができたように思う。実際の授業では、「目」「鼻」「口」などの簡単な日本語を発音しながら福笑いに挑戦するという活動を取り入れた。子どもたちはすぐに遊び方を理解し、自由に遊ぶ時間では福笑いに夢中になる姿が見られた。出来上がった福笑いの顔をグループ内で見ながら、「化け物みたい」「面白い」などと楽しむ様子があった。韓国教員大学校の学生にも協力していただき、私自身も楽しみながら授業を行うことができた。

### 4. 終わりに

今回の研修を通して、韓国の文化や教育の様子を体験的に学び、自分の視野が広がった。自分が教員になり、学級に海外にルーツのある児童がいたときは、今回の経験を活かしながら様々な国の文化について学級全体で学ぶ機会を積極的に作りたいと思う。

# 海外教育研究C（韓国）

所属 大学院 教科教育・教科複合実践研究 コース  
氏名 間嶋夏生

## 1. はじめに

私は、9月23日から27日にかけて、海外教育研究C（韓国）の授業に参加をした。私自身はこの授業を取るのとは初めてではなく、一昨年に海外教育研究D（台湾）に参加しており、海外の小学校での授業実践を行うのも2回目であった。私がこの研修に参加した理由としては、以前から韓国の教育について興味があり、日本や他のアジアの国で行われている教育について類似している点や相違点を知りたいと考えたからである。また異文化理解教育に興味があり、将来教員として働いた時に、外国の文化と日本の文化を比較したり異文化を通じて日本の文化を再認識したりできるような授業を行いたいと考えている。そのために、まず自分自身が様々な国を訪問し、そこでしかできない異文化体験を試みようと考え、この授業を受講した。

## 2. 教育の比較

今回訪問した韓国教員大学校ウォルコク小学校では、実際に行われている教育や教育設備についての説明を聞いた。ウォルコク小学校では、体験をベースとした教育活動が行われており、授業や休み時間で児童が使用できるPCが整っていたり、3Dプリントなど最新設備が整っていたりした。韓国教員大学校に在籍している学生の話によると、3Dプリンターは通常の韓国の小学校には設置されていないそうだが、小学生のうちから児童のやりたいことを充実させておく点においては、とてもよいことなのではないかと考えることができた。



(写真右：PCルーム、左：3Dプリンター)

## 3. Teaching Practiceに対する振り返り

授業実践では、日本の伝統的な遊びである「紙相撲」を行った。海外教育研究D（台湾）においても「紙相撲」を用いて英語で授業実践を行ったが、今回は全て日本語で授業を行うという点においては初めての体験だった。チームの中では、海外教育研究の授業の経験者であり最年長でもあったので、今までの経験を生かしながら意見を出したり、時にはチームの意見をまとめたりできるよう努力をした。「紙相撲」というと、1対1で戦うことが多くなり、どうしたら児童が楽しく活動できるか、どうしたらわかりやすくルールを伝えることができるかなど、先生方にご指導いただきながらたくさんの修正を加えた。授業の前日もチームで土台の制作をしたり最終確認をしたりし、最終調整をおこなった。

授業当日、教室に入ると児童が笑顔で「こんにちは〜。」と日本語であいさつをしてくれ、とても嬉しくなった。中盤では、隣同士で戦うだけでなく、班の中で話をしたりしながら楽しそうに取り組んでいる児童の姿を見ることができた。また2人の先生たちと戦うときに、子どもたちは積極的に前で先生と戦っている様子を見ることができた。その中でも審判をしている私のところにやってきた一人の女の子が印象に残っている。審判をやったそうに見ていたので、「審判やってみる？」と少し軽い説明をして手作りの軍配を渡すと、その女の子はニコニコしながら受け取り、「はっけよーい、のこった！」と合図をした。私はその姿を見て、とても嬉しくなった。

授業終了後、3人の児童が私たちのところにやってきて、折り鶴をプレゼントしてくれた。準備期間が短い中で、私の力不足もありチームを上手くまとめられてないなと感じたり準備するものも多かったりしたりして大変だと感じたが、とてもやりがいを感じた。

#### **4. 終わりに**

今回の研修で、子どもたちのために授業作りを行うやりがいを再認識することができた。また韓国に滞在している中で、言語が理解できるというありがたみを感じた。文化研修では、電車やバスなどの公共機関を使って様々な場所を訪れた。その時、乗りたいバスに乗れなかったり、降りる駅を間違えてしまったりなど予期せぬ出来事もたくさんあったが、間違えてしまっても運転手さんが間違いを教えてくれたり、観光客の人が優しく教えてくれたりしてとても温かい気持ちになる出来事もあった。少し英語が話せたこともあり、言語に困る出来事はなかったが、私自身も観光客や見ず知らずの土地に来た外国人の方には優しく教えてあげたいと考えることができた。教師としてもこの出来事を子どもたちに伝えていきたいと考えている。

# 海外教育研究

## M3 学校ヘルスケアコース 大野珠実

### 1. はじめに

韓国研修については、9月23日から27日の5日間であり、授業実践や現地の小学校見学・キャンパスツアーなど、様々なプログラムが組まれていた。ただ、今回の研修は、韓国の小学生に対して、授業を行うことがメインであり、私のチームは日本のお正月遊びである「福笑い」について、体験活動も交えながら、授業をさせていただいた。

本時のレポートでは、授業実践・キャンパスツアー・韓国料理・総括の4つについて、下記に記載する。

### 2. 授業実践

授業実践においては、2つのグループに分かれてそれぞれ授業を行い、私のグループは日本のお正月遊びである「福笑い」をテーマに、小学校の低学年に向けて、学部生の方々と一緒に、授業を行った。

授業としては、子ども達が楽しんで福笑いに触れてほしい思いがあったため、体験活動を中心に、授業の構想をグループ内で考えた。授業中の様子としては、興味や関心を持って、私達のお話や福笑いの説明を聞いており、とても嬉しかった。また、福笑いの体験活動では、慎重に顔のパーツを置いている子もいれば、パーツをすぐに置く子もおり、活動を通して、その子の性格や個性を知ることにも繋がった。

授業前は、色々と不安を抱いていたが、通訳をして下さった現地の学生さんや先生方の支えもあり、トラブルが起きることなく、最後まで進めることができ、とてもホッとした。



### 3. キャンパスツアー

キャンパスツアーでは、図書館や校内にある歴史館などを見学させていただき、学校内の様子や雰囲気を実感的に感じることができて、有意義な時間を過ごすことができた。

図書館においては、至る所に自習スペースがあり、勉強に励んでいる学生が多く見受けられた。また、英語や算数など、学校で使用する教科書や参考書が沢山置いてあり、上越教育大学の図書館と共通する部分があると感じた。ただ、現地の教科書を拝見した際に、日本の

教科書よりも分厚く、小学校で使用する英語の教科書に関しては、日本の中学レベルの内容が記載されており、日本の小学校と比較して、学習スピードが早いように感じた。

歴史館の見学では、昔の暮らしを再現した模型や当時の教科書・小銭などが展示されており、どんな生活をしていたのか、当時の暮らしを学ぶことができ、とても勉強になった。また、当時の小学校を再現した教室もあり、電子ピアノや黒板、教壇などがあったことから、日本の教室における雰囲気とあまり変わらないように感じた。



#### 4. 韓国料理

研修中は、ビビンバやチヂミ、キンパなど、様々な韓国料理を食べたが、どれも美味しく、日本人の口に合う味わいであると感じた。チヂミについては、キムチや野菜など、様々な味付けのものを食べたが、どのチヂミもサイズが大きく、とても食べ応えがあった。また、参鶏湯は、あっさりとしたスープに大きな鶏が入っており、一人前の量ではあったが、2人でシェアしても、十分に満足できる量であると感じた。

そして、飲食店に行けば、ほとんどの確率で、キムチが付いており、お店によって、辛さや酸味などが異なるため、韓国料理だけでなく、キムチの食べ比べもすることができて、とても良い思い出になった。

ただ、韓国料理を全制覇することができなかつたため、今度、韓国に行った際には、ユッケやスンドゥブなど、今回食べることはできなかった料理も食べたいと思う。



#### 5. 総括

今回の研修では、授業実践や現地における学生の方々との交流等を通して、韓国の教育に対する考え方や歴史など、多くのことを学習することができた。私自身、来年の春から小学校教諭として働くため、社会や英語などの授業を通して、子ども達に伝え、異文化理解に繋がっていきたいと思う。また、現地の教員大学に通う大学生の方々との交流を通して、韓国の教育事情や日本に対するイメージなど、多くのお話を聞くことができて、とても貴重な時間を過ごすことができた。5日間、本当にありがとうございました。

# 記録写真







